

○集材路

近年、索道に代わる集材方法として“集材路(幅 2.5m)”が目立つようになった。一林業会社が 1960 年代頃に確立した林業機械専用路であり、索道の事故率が高いこと、森林施業の担い手がないこと、木材価格削減の必要性等が開発の背景にあったものと思われる。近年になって、壊れないこと、安価※に構築できることなどが評価され、徐々に普及しているようである。

※測量設計なし、重機オペレータのセンス任せ、施工単価 1800 円/m

“林道が落ち着く(崩壊等がなくなる)には 20 年程度が必要“という現場担当者の話を聞いたことがある。浸食の過程でバランスしている斜面を局部的に乱す行為は、どう見ても不安定化要因であり一部で崩壊を誘発している例も報告されている。生産性向上とのトレードオフといったところか……



○巻枯らし



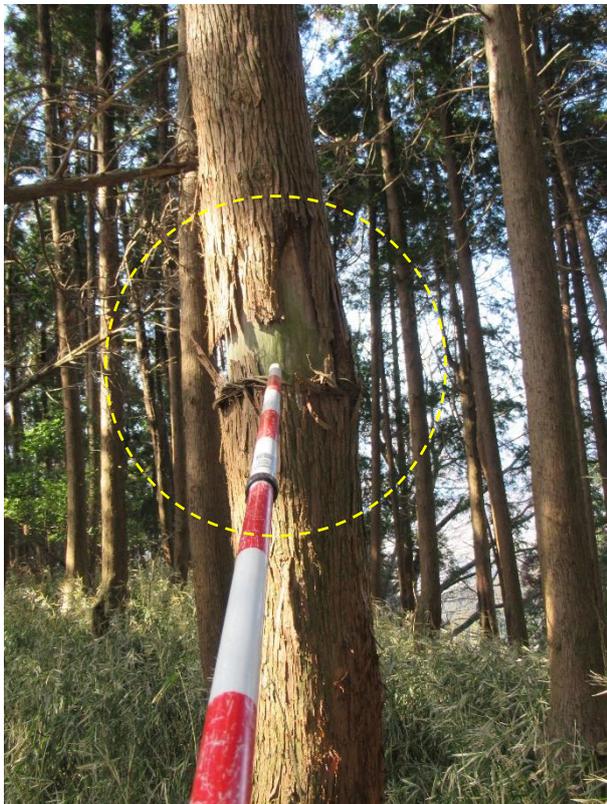
ワイヤーのくい込みと破断した樹皮の癒着

“巻枯らし”という樹皮を一周剥ぐことで立木のまま枯らす方法があるが、その幅が小さい場合は効果がないようである。

○立ち枯れ



○熊本地震による？造林木の変状（震源地から 20km 付近）



幹の局部的膨らみ（座屈？）



幹割れ